

2023年9月20日
株式会社SVPジャパン

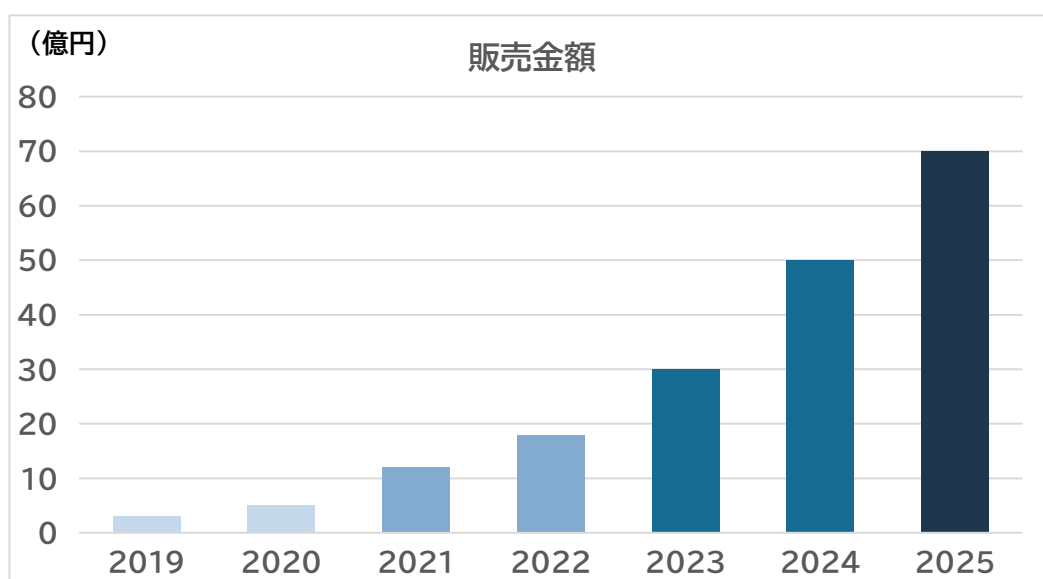
SVP注目市場分析 「ヘルステック (AI診断支援システム)」を公開

～現場の人材不足を軽減するなど、効率的な医療を提供～



会員企業に対して公開情報を用いたビジネス情報提供を行う、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポートの「ヘルステック (AI診断支援システム)-国内市場の現状と将来展望-」について会員企業向けに公開いたしました。

■ヘルステック (AI診断支援システム)の国内市場



AI診断支援システムの市場規模は、2022年に約18億円であったと推定される（ソフトウェアやシステムの販売元、クラウド型サービスの提供事業者の売上ベース）。導入期にある市場であり、規模はまだ比較的小さいが、順調に拡大しつつある。種類別には、現時点ではAI画像診断支援システムの売上がほとんどを占めている。

AI画像診断システムは、医療現場のニーズが高い領域として、開発に力を入れる企業が増加している。AI問診システムについても、サービスを提供している企業が導入実績を着実に伸ばしている。より長期的には、画像診断や問診の他にも、診断へのAI活用の裾野が広がっていくことが期待される。

■ヘルステック (AI診断支援システム)の市場概況

「ヘルステック」とは…

AIやクラウド、ウェアラブル端末などのデジタル技術を活用して、医療や介護の現場向けに開発・提供されている新しい機器やサービスを指す。

AI診断支援システムとして、医用画像をAIで解析して病変などを自動判定する「AI画像診断支援システム」、及び、AIによって問診を自動化する「AI問診システム」を調査対象とする。

AI画像診断システムは、2019年から薬事承認を受けたシステムの医療現場への導入が本格的に始まり、市場が立ち上がっている。同年に大腸内視鏡検査の診断を支援するAIシステムが販売されたことに始まり、これまでに、胸部のX線やCT画像、脳のMRIや頭部CT画像の診断を支援するシステムやサービス、また、眼底画像の診断を支援するサービスなどが実用化されている。

AI問診システムは、2018年に、WEB問診システムにおいてAIを活用したサービスの提供が開始された。参入企業はまだ少ないが、導入コストを抑えられるクラウド型サービスを中心に、診療所を含めて利用する医療施設が増加している。

実用化が進んでいるヘルステックの主な領域とAI診断支援システムの位置づけ



■本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造

■本レポートの購読について

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

ご希望の場合は、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

お問い合わせは、こちらをクリック



資料請求

お問い合わせ

SVP会員の方は、こちらをクリック



会員サイト

■次回のテーマ

10月のテーマは、「ヘルステック（バイタルセンシング・ウェアラブル端末）」と「ヘルステック（オンライン診療システム）」です。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン デジタルマーケティング部
info@svpjapan.com